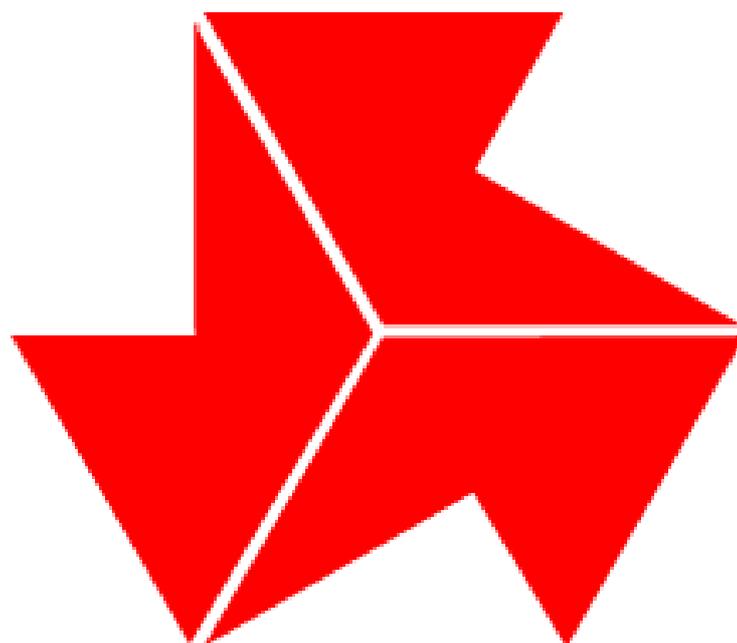


平成 27 年度関東高等学校テニス選手権大会



審判・CR必携

埼玉県高等学校体育連盟テニス専門部

目 次

審判必携	P 2～
1 大会関係日程	P 3
2 審判員の日程	P 4
3 審判員の注意事項	P 5
4 審判員の仕事	P 6
5 主審のコールとアナウンス	P 9
6 審判員の注意事項（試合中）	P 13
7 審判配置と判定ライン	P 17
8 審判員の主なコール	P 18
9 主審のテクニックと知識	P 20
10 知っておきたいテニスルール	P 23
11 雨天時の対応	P 26

CR必携	P 27～
1 コートレフェリー（CR）委員会の仕事（概要）	P 28
2 試合開始時におけるCRの仕事	P 31
3 試合中におけるCRの仕事、トラブル対処について	P 31
4 試合、セット終了時におけるCRの仕事	P 36
5 トラブル対処事例（競技関係）過去の事例	P 37
6 トランシーバー	P 38
7 コートレフェリー報告用紙 記入例	P 39

平成 27 年度関東高等学校テニス選手権大会

CR 必携

埼玉県高等学校体育連盟テニス専門部

1 コートレフェリー（CR）委員会の仕事（概要）

（1）CRの服装

- ① 業務時の服装は、支給された帽子、ウエアを着用すること。
テニスシューズ、ペットボトル（飲み物入れ）は各自で準備する。
- ② 業務中、貸与されたIDカードは必ず首にかけておくこと。

（2）CR役員

CR委員長＝長澤（本庄東） CR副委員長＝関（農大三）
CR地区代表者＝東部：和知（羽生第一）西部：平山（立教新座）
南部：山賀（伊奈学園）北部：大沢（本庄）

【CRの心得】

- ① 試合が公正かつ円滑に進行するようトラブル処理、進行報告などあらゆる配慮をする。
- ② 主審・線審の生徒審判員を助け、彼らを守る気持ちを持って業務に臨む。
- ③ トラブルの事前防止、事後処理を徹底する。また、生徒審判員への助言や依頼を適宜行う。
- ④ トラブル発生時にはただちにCR委員長やアシスタントレフェリーへの報告を行う。
- ⑤ 団体戦では激しい応援が予想される。問題がある場合には早めの報告、対処でトラブルを防止する。

【CRの仕事（概要）】詳細は後述

① 試合開始前に関すること

- コートの準備、審判の確認などを行い、試合が円滑に始められるようにする。
- 服装・用具を確認し、ロゴ等の違反があれば更衣・交換を要求する。
※ 予備が会場内にある場合は、主審に申し出、CRの許可をもって3分間以内に取りに行くことができる。その際、CR本部に連絡して、控えのCRに予備のある場所まで付き添ってもらおう。

② 試合中における対応について

- 審判が帽子を振ったらトラブル発生の合図。すぐに審判の元へかけつける。
- メディカルタイムアウトの連絡を行う。
- トイレトブレイクの連絡を行う。
※ CRが1面担当時には担当のCRが付き添い、2面以上担当時には、トランシーバーでCR本部に連絡をし、控えのCRに付き添いを依頼する。
- タイムバイオレーション、コードバイオレーションなどが発生した場合、審判のサポートをしながらCR本部への連絡を行う。
- 観客態度に絶えず気を配り、必要に応じて積極的に注意を行う（ソフト・ウォーニング）。観客のバルチザン・クラウド等に直接介入する。ペナルティーの賦課については、CR本部と連絡を取り合い、適切に行う。
- 団体戦ではベンチコーチによるプレー中のコーチングや倫理規定への違反がないか気を配る。
違反があった場合は適切に対処する。

③試合、各セット終了後について

- 各セット、試合が終了した時に競技進行本部へスコアを報告する。
- 試合終了後、スコアカードのチェックを行い、確認のサインを記入する。その際、審判員に簡潔にアドバイスをする。
- CRが交代する場合は必ず報告用紙を引き継ぎ、試合に関する情報が後任の者に伝わるようにする。

④その他の業務（競技運営）について

- ボールパーソンが試合途中に入るのはエンドチェンジ時に限り、CRが対応する。
- ボールパーソンがエンドチェンジの際の選手への介護（タオルで影を作ったり、うちわで扇ぐ等）を禁止する。立つ位置は、選手・審判の邪魔にならない場所とし、1校1名とする。特にネット横との規定はない。
- 飲み物やラケットの交換などはCRが対応し、エンドチェンジ時に選手へ渡す。
- 競技会場での校旗・部旗・横断幕などの掲揚は、プレイの邪魔にならない範囲で応援者が手に持つ場合のみ認める。フェンスへ結びつける、押しつけるなどの行為は禁止とする。
- 許可された報道陣は、所定の帽子、腕章を身につけているので確認する。撮影は決められた場所で行う。邪魔になる場合は移動させる。フラッシュの使用は禁止する。
- ロストボールの交換は、ウォームアップ中または2ゲーム以内ならニューボール、それ以降はユーズドボール。ただし、ウォームアップを2ゲーム分とみなし、ファーストセットの1・2ゲーム中のロストボールについては、ユーズドボールを使用する。予備のボールはCRが持っている。ボールの補充は待機しているCRが適宜行う。
- セットブレイク方式を採用する。

【留意事項】

- ◎コード・バイオレーションやタイム・バイオレーション等のペナルティーについては、ソフト・ウォーニング・警告のたびに、CR本部に報告する。
突発的なコード・バイオレーション（危険行為等）以外のペナルティーの賦課はCR本部の承認を得てから行う。
- ◎ソフト・ウォーニングを多用し、試合をスムーズに進行させるようにする。
- ◎主審・線審を助け、守る気持ちを強く持って業務に臨む。
- ◎試合が公正に、かつ円滑に進行するよう、あらゆる配慮をする。
- ◎トランシーバーの扱いには注意する。（p.38「トランシーバー」参照）
- ◎トラブルの事前防止・事後処理を徹底する。また助言や依頼を適宜行う。

(3) CRの日程

□ 大会関係諸行事日程

諸会議		日 時	会 場
組合せ会議		5月 30日（土）	
引率責任者・監督連絡会		6月 5日（金） 15：00	狭山市智光山公園 市民総合体育館 2階会議室
開会式		6月 5日（金） 16：00	狭山市智光山公園 市民総合体育館 アリーナ
関東高校 テニス 選手権大会	団体の部 表彰式	6月 6日（土）競技終了後	
	個人の部 表彰式	6月 8日（月）競技終了後	

□ 競技日程

		6月 6日 (土)	6月 7日 (日)	6月 8日 (月)
男女団体		1回戦～決勝 (9:00～) 1セットマッチ		
男女個人	単		1回戦～準々決勝 (9:00～) 1セットマッチ	準決勝・決勝 (9:00～) 3セットマッチ
	複		1回戦～準決勝 (9:00～) 1セットマッチ	決勝 (9:00～) 3セットマッチ

□ 集合時間及び試合開始時刻

	6 / 6 (土)	6 / 7 (日)	6 / 8 (月)
会場集合時間	7 : 30	7 : 30	7 : 30
競技開始時刻	9 : 00	9 : 00	9 : 00

- ① 会場到着後、すみやかにミーティング会場に集合
- ② CR地区代表による点呼・出欠の確認
- ③ CRミーティング
- ④ CR業務開始
- ⑤ 担当時間終了、交替（「CRセット」と「コートレフェリー報告用紙」を引き継ぐ）
- ⑥ CR控室に戻り、休憩する。
- ⑦ 全試合終了・最終組終了
- ⑧ ミーティング会場に集合しミーティング（IDカードを返却し、1日の反省を行う）
- ⑨ 解散

(4) CRセット

- | | | |
|-----------------------|----------------|-------------|
| (1) ストップウォッチ | (2) 審判必携 | (3) バインダー |
| (4) CR報告用紙 | (5) ボールペン(赤・黒) | (6) トランシーバー |
| (7) ニューボール、セットボール1缶ずつ | | |

* 雑巾、ティッシュペーパー等はCRが各自で準備。

2 試合開始時におけるCRの仕事

(1) 試合前に行なうこと

●CRは担当時間10分前にコートへ行き、交代を待つこと。交代はエンドチェンジあるいは試合終了時に迅速に行う。試合最初の場合は主審・線審のあいさつを待つこと。

●試合開始前にネットの高さ、シングルス・スティック、ネットの張り具合のチェックを行う。

●審判員が到着していない場合は、直ちにトランシーバーで審判係に連絡をする。また、審判員の健康及び作業状況の把握をする。交替の必要がある場合は、審判係へ連絡をする。

※審判員の準備が完了していない場合は、「試合の準備が整うまでもう少しお待ちください。」と伝え、選手・監督をコートに入れず、入口の外で待機してもらう。

●選手の服装・用具を確認し、ロゴ等の違反があれば更衣・交換を要求する。

※予備が会場内にある場合は、主審に申し出、CRの許可をもって3分間以内で取りに行くことができる。その際、CR本部に連絡して、控えのCRに予備のある場所まで付き添ってもらう。

(2) 選手が来ない場合

●試合開始・集合の遅れについてはCR本部・競技進行本部と連絡を取り合い、ペナルティーについてはレフェリーが判断する。

※試合開始時間もしくは審判員が試合開始の準備が完了してから、5分経っても選手がコートに入場しない場合、CR本部に連絡をする。

【参考：試合開始の遅れによるペナルティー】

- ・10分遅れた選手は、トスの敗者となり、第1ゲームを失う。ただし、3分間のウォームアップはできる。
- ・15分以上遅れた選手は、失格となる。
- ・双方が10分遅れた場合、ウォームアップは行うが、1-1から試合を開始する。
- ・双方が15分以上遅れた場合、双方とも失格となる。

3 試合中におけるCRの仕事、トラブル対処について

(1) 態度やマナーが悪いプレイヤーへの対処

- ① 審判台の後方へ待機し、状況把握につとめる。
- ② エンドチェンジの際に主審に状況を聞き、必要ならばそのまましばらく待機する。
- ③ 状況によっては、ソフト・ウォーニングや警告するように指示する。
※CRが審判台の後ろへ待機すれば、プレイヤーのほとんどは態度が改善される。
※各バイオレーション、パルチザンクラウドについては後述。

(2) トラブルが発生し主審が帽子を振った場合

☆事実問題（判定「グッド」または「アウト」）に関しては、次のように対処する。

例 ボールは「アウト」とコールされたが、プレイヤーは「ボールはグッドである」と抗議。

基本的には主審がすべて対処するが、選手がなかなか納得しない場合。

CR 「今のボールはグッドでしたか？」

主審 「アウトでした。」

CR 「それでスコアはどうになりましたか？」

主審 「はい。15-30です。」

→ そして主審はプレイを促し、抗議の終了を宣言する。選手がそれでもプレイを再開しない場合は「レッツ・プレイ！」と言い、選手に見えるようにストップウォッチを押す。

☆法的問題（ルールに関する問題）で、主審が対処できない場合の事例

例 グッドのボールを、線審の誤ったコールのためにプレイを中断してしまった。

中断したプレイヤーは「レット」を、継続したプレイヤーは「ポイント」を要求している。

A 基本的に「レット」として対処する。

B プレイを中断しなくても、明らかなエースであった場合は「ポイント」となる。

注意 抗議内容については基本的には主審から聞く。主審が曖昧な態度をとった場合は、必要に応じて選手から事情を聞くが、必ず双方の選手から聞く。

(3) メディカルタイムアウト (MTO) の手順

1 言葉の意味 : 治療による中断【メディカルタイムアウト (MTO)】

1カ所1回に限り、明らかな事故によるけがについては**3分間**の治療を受けることができる。「3分間」とはドクターまたはトレーナーが現場に到着し、ケガの状態を診察したあと、**治療を開始したときからそれが終わるまでの時間**をさす。通常のけいれんの場合、メディカルタイムアウトは取ることはできない。

※以上ルールブックではドクターとトレーナーが治療を行う前提での記述。関東高校ではドクターやトレーナーは不在なので、明らかな事故による怪我や流血が発生した場合、エンドチェンジ時に MTO を取り、**3分間個人戦の場合は自己手当、団体戦の場合は監督やベンチコーチによる手当**を認める。処置・手当の時間経過後の対応については下記手順を参考に速やかに競技を再開するように促す。

2 手順

①けが・けいれんや体調不良による試合中断が発生

↓

②突発的なけがであるとCRが判断した場合、選手にMTOを受けるかどうか確認

A : 受ける アシスタントレフェリーに連絡

B : 受けない

20秒・90秒ルールの適用 タイマーを入れる。

↓

③自己、または監督・ベンチコーチによる処置・手当

●**3分間は処置を始めた時から計時。**

※鼻血については、理に適った時間で休憩させ、止血し状態が落ち着いてからプレイを再開させる（3分間の時間は計らない）。

3 処置・手当の完了

治療中は「あと2分です」「あと1分です」「あと30秒です」と選手、監督・ベンチコーチにアナウンスする。

●「手当が終わりました（トリートメント・コンプリート）」とアナウンスする。

●試合再開の準備ができたなら「タイム!!」とコールする。

30秒を計時

●30秒経過してもプレイを再開しなければ「コード・バイオレーション」となる。

●中断が15分を越えたら、ウォームアップを3分することができる。

(4) タイム・バイオレーション ※体力消耗による場合が主

- ① ポイント間 20 秒以上が出てきたら 20 秒経過後 主審「タイム」コール
- ② タイムコール後、帽子を振る→コートレフェリーが審判台に移動し、審判に確かめる
- ③ 確認がとれた時点でCR本部に「タイム・バイオレーションをとっていか」確認
- ④ 確認がとれたら、2 回目タイムオーバー時 ソフト・ウォーニング
主審：「タイム 次から 20 秒以上なりましたら タイム・バイオレーションになります」

※選手が聞き取りにくかった場合はコートレフェリーが 1 回コール

- ⑤ 「タイム・バイオレーション ウォーニング ○○高校 (○○選手)」 後、コートレフェリーは本部連絡
- ⑥ 「タイム・バイオレーション ポイント・ペナルティー ○○高校 (○○選手)、40-30」
後、コートレフェリーは本部連絡

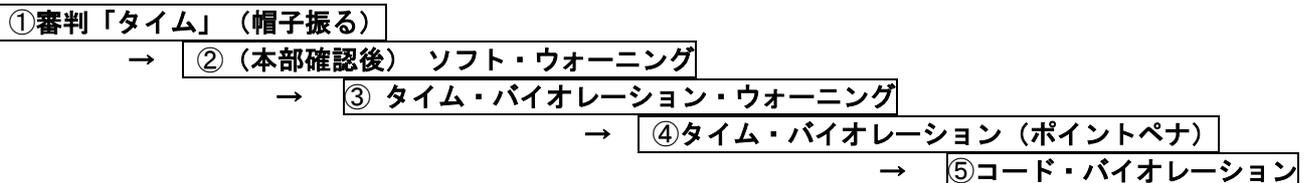
※タイム・バイオレーション ポイント・ペナルティー後 20 秒経過してもプレイしない場合

コード・バイオレーションへ移行

- ⑦ コートレフェリーは、本部に「コード・バイオレーションをとっていか」確認
- ⑧ 確認がとれたら、「コード・バイオレーション ウォーニング ○○高校 (○○選手)」
後、コートレフェリーは本部連絡
- ⑨ 「コード・バイオレーション ポイント・ペナルティー ○○高校 (○○選手)、40-0」
後、コートレフェリーは本部連絡
- ⑩ 「コード・バイオレーション ゲーム・ペナルティー ○○高校 (○○選手)、○○高校リード 3-0」
後、コートレフェリーは本部連絡

⑩の繰り返し

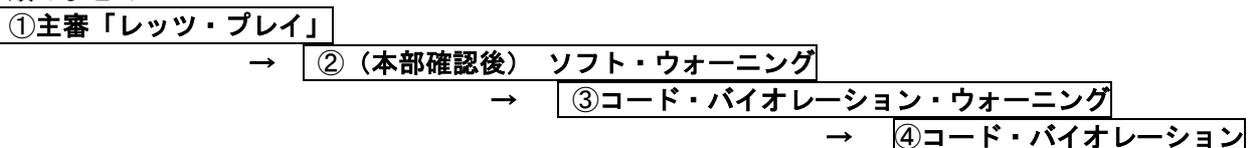
手順のまとめ



(5) コード・バイオレーション ※クレーム・イライラによるものが主

- ① A 審判台に詰め寄ってクレーム
Bポイントに納得がいかず次のプレイに入らず、「タイム」をかけても従わない
- ② 主審は、「入っていました(アウトでした)」と、はっきり選手に伝え 「レッツ・プレイ」とコール
- ③ 20 秒以内にプレイを開始しない場合、主審は帽子を振ってコートレフェリーを呼び、状況を話す
- ④ コートレフェリーはCR本部に「コード・バイオレーションをとっていか」確認
- ⑤ コートレフェリーから選手に説明し、聞かない場合は ソフト・ウォーニング
「コード・バイオレーションとなりますが いいですか」
- ⑥ 「コード・バイオレーション ウォーニング ○○高校 (○○選手)」
後、コートレフェリーは本部連絡
- ⑦ 「コード・バイオレーション ポイント・ペナルティー ○○高校 (○○選手)、40-0」
後、コートレフェリーは本部連絡
- ⑧ 「コード・バイオレーション ゲーム・ペナルティー ○○高校 (○○選手)、○○高校リード 3-0」
後、コートレフェリーは本部連絡

手順のまとめ



◎かなり悪質な突発的な行為・言動の場合

主審：帽子でコートレフェリーを呼び、ただちに本部確認 → ソフト・ウォーニング
コード・バイオレーション ウォーニング → コード・バイオレーション

◎コード・バイオレーションが適用される場合

●不当な遅延

※「レッツ・プレイ」の指示から、20秒以内に試合を再開しない。

※負傷による中断後30秒以内に試合を再開しない。

※疲労や体力消耗によって、試合が続行できない。

●ボールの乱用

●ラケットや用具の乱用

●言葉による侮辱

●身体に対する危害

●ひわいな言葉

●ひわいなしぐさ

●スポーツマンシップに反する行為

※相手側コートのボールマークを調べようとして、ネットの線を越して相手方コートへ行く等の行為も含む。

●チーム戦での妨害応援

○選手がポイント取得後、ネットに近寄り相手を威嚇するようなポーズは、見苦しい行為ではあるが、ペナルティーの対象とはしない。

○ダブルスのパートナー同士のかげ声等は大目に見る。

(6) 団体戦におけるベンチコーチについて

●ベンチコーチの資格と数

※団体戦のベンチコーチは、監督と登録選手だけが1面につき1人入ることができる。

多面進行の場合も同様で、1名のコーチが隣のコートへのコーチングは出来ない。

●ベンチコーチの移動

※多面進行の場合、監督はインプレイでない20秒の間にゲーム中でもベンチを移動してよい。

ただし、プレイの支障にならない範囲で行うこと。

●エンドチェンジ時以外のベンチコーチの助言等について

※選手を激励するために、選手に声をかけたり、ある程度の動作での指示は認める。

【認められる例】

頑張れ(ファイト) / ナイスショット / ドンマイ / ポイント / 先リード / 慎重 / 集中 / ファースト / 強気 など

ただし、以下のような場合はペナルティーの対象となる。

○インプレイ中の助言等(エンドチェンジ時の助言は認める)。

○試合の進行やプレイの連続性を妨げる場合。

○技術的内容及び戦術的内容。

○選手をベンチに呼んだり、選手のもとに行ったりする。立ち上がりも禁止とする。

●団体戦における監督(ベンチコーチ)に倫理規定違反があった場合

主審にアナウンスさせたあと、アシスタントレフェリーに連絡する。

1回目…警告を与える。「スポーツマンシップに反する行為、〇〇高校、ファーストウォーニング」(1回目の警告)

2回目…警告を与える。「スポーツマンシップに反する行為、〇〇高校、セカンドウォーニング」(2回目の警告)

3回目…退場。「スポーツマンシップに反する行為、〇〇高校、退場」

※コートレフェリーが直接コード・バイオレーションを科してもよい。

(7) 観客による応援について

●観客は選手に対して、アドバイスをしてはならない。ただし、大会の盛り上げや観客増加につながる範囲の応援については、柔軟に対応する。以下のようなものは応援として認める。

【認められる例】

頑張れ(ファイト) / ナイスショット / ドンマイ / ポイント / 先リード / 慎重 / 集中 / ファースト / 強気 など

●観客態度に絶えず気を配り、必要に応じて積極的に注意を行う(ソフト・ウォーニング)。

観客のバルチザン・クラウド(応援による悪質な応援)等に直接介入する。

ペナルティーの賦課については、アシスタントレフェリーと連絡を取り合い、適切に行う。

※ペナルティーについては、以下の通りである。

1回目…警告を与える。「応援が悪質だと失点になりますので注意して下さい。」

2回目以降…失点

アナウンス例「コード・バイオレーション、バルチザン・クラウド、
ポイント・ペナルティー、〇〇高校 40-15」

※観客が相手選手を侮辱したり、勝手にジャッジする行為は、ペナルティーの対象となる。

※応援歌は、エンドチェンジ時のみ許可する。しかし、他コートの試合の選手および監督等からクレームが出た場合は、控えるよう求める。

(8) トイレットブ레이크について

	男子	女子
3セットマッチ	単：1回 複：ペアで2回	単：2回 複：ペアで2回
1セットマッチ	緊急時に限り シングルス1人1回 ダブルスはペアで1回	

●トイレットブ레이크はセットブ레이크時に取ることが出来る。

所要時間は男女とも理にかなった時間内(会場内のトイレとの距離などから考慮する)とする。

●ダブルスにおける「ペアで2回」とは、1人2回のことではない。ペアの1人が2回行ってしまうと、そのパートナーはトイレに行くことはできない。なお、2人で同時に行った場合は1回として数える。

●女子については、トイレットと着替えは別々に数えられるものではない。

●着替えはエンドチェンジ時のみコートを離れることを許される。

※トイレットブ레이크の流れ

- ① 選手の学校名及び氏名を確認し、報告書に記入する。
- ② CRはトランシーバーでその旨を、CR本部に連絡する。
- ③ 選手を一番近いコート出口に行かせ、付き添いのCRが来るのを待つ。
- ④ 選手がコートを出たらストップウォッチを押し、報告書に時間を記入する。
- ⑤ 戻ってきたらCR本部に報告し、報告書に時間を記入する。

(9) その他試合中における対応

●団体戦の各試合の結果を把握し、他のコートで終了したS、Dの結果をゲームカウンターの一番右の列に表示する。ゲームカウンターの操作はCRが行う(審判員は、ゲームのスコアのみ操作する)。

●ゲームカウンターの間違い等があれば、サービスライン・アンパイアに訂正を指示する。

●主審や線審がコートを離れるときは、CRに申し出るのでCR本部へ連絡後、許可を与えて行き場所を把握すること。

●試合中の飲料水等の差し入れの対応を行う。

※最も近いコート入口に置かせ、エンドチェンジ時にベンチに運ぶ。

- ロストボールへの対応を行う。予備のボールは「ニュー」及び「ユーズド」ともに2缶ずつをCRセット袋に入れておき、CRが管理し、補充が発生したら主審に渡す。使用した場合は、補充しておくこと。（CR控え室にあるボールを補充する。但し、ウォームアップを2ゲーム分と見なし、ファーストセットの1・2ゲーム中のロストボールについては、ユーズドボールを使用する。）
※プレイに使われていたものと同程度のボールを補充する。1球紛失でもボールの使用状態に差がある場合は2球入れ替える（ウォームアップ中またはボールチェンジ後2ゲーム以内の場合のみニューボールを補充する）。
- フットフォルトしている選手がいたら、主審に知らせて取らせる。
- ボール侵入を主審が気付かず、選手が危ない場合はCRが「レット」をかけてもよい。
- その他、突発的な出来事や困った事態になった場合「ルールブック」や「審判必携」に従って判断すること。対応に苦慮する場合は、トランシーバーでCR本部に連絡する。

4 試合・セット終了時におけるCRの仕事

- 各セット、試合が終了した時に競技進行本部へスコアを報告する。
- 試合終了後、スコアカードのチェックを行い、確認のサインを記入する。その際、審判員に簡潔にアドバイスをする。
- 団体戦の最終試合の主審に団体戦のポイント結果を伝え（打ち切りがあればその指示をする）、団体戦終了時の挨拶をするよう指示する。
※団体戦ポイントの確認は、競技進行本部を通して行うことができる。
- CRが交代する場合は、必ず報告用紙を引き継ぎ、試合に関する情報が後任の者に伝わるようにする。

5 トラブル対処事例（競技関係）…過去の事例

トラブルには『迅速』かつ『的確』な処理が必要です。まずは主審が対応しますが、処理できないと判断したときは、速やかにCRが対処して下さい!!

事例1 : ボールがコート外に飛び出してしまった。

本 部 : 「コート周辺で応援している生徒、またはCRが取りに行くこととなりますが、時間がかかると思われる場合は、予備のボールを使用してください。」

◎2ゲームまでにロストした場合はニューボール、以降はユーズドボール。

事例2 : 監督が複数のコートのベンチを移動している。

本 部 : 「ポイント間（20秒）で、他コートの試合に差し支えがなければOKです。」

事例3 : ボールパーソンが、自分の学校の選手のボールしか拾わないのですが？

本 部 : 「中立な立場でボールを拾うように指導してください。応援もだめです。アドバイス用の紙片の持ち込みに注意してください。」

事例4 : 相手校の監督から「相手選手の帽子のロゴが違反の大きさではないか？」とクレームがあった。

本 部 : 『テニスルールブック』を持参の上、大きさをチェックし、帽子を替えてもらう。ウェアを裏返ししたり、ロゴに粘着テープなどを貼ったりしたものは、不適切なウェアとして着用できない。

事例5 : 選手が、コート後方の椅子やフェンスにタオルを置いている。

本 部 : 「各コートのCRは、飲料水やタオルをベンチに置くように指示してください。」

◎椅子にかけたりすると、相手選手の視界にじゃまになる。

事例6 : 監督がベンチで立って応援している。

本 部 : 「座って応援してください。」

事例7 : 監督が2面のコートに指示を与えている。

本 部 : 「ベンチが設置してあるコートのみ応援をお願いします。」

事例8 : インプレイ中、「ポーチに出る」というアドバイスをしている。

本 部 : （ポイント間に）「アドバイスはエンドチェンジ時のみにしてください。」

◎このような場合、CRが審判台後方に待機して牽制する。

事例9 : 選手がラケットでネットをたたいた。

本 部 : 「すぐに（ポイント間に）注意を促してください。」

事例10 : 団体戦の試合開始の挨拶終了後、選手がトイレトブレイクを要求した。

本 部 : 「ウォームアップ前は自由にトイレに行くことができます。（トイレトブレイクではない。）ただし、試合開始のコールから所定時間内（10分以内）に試合を開始しなければならないので〔時間厳守に〕注意して下さい。」

事例11 : 試合中、選手（監督）の携帯電話が鳴った。

チェンジコートの際、ベンチで選手（監督）が携帯電話を操作し、見ている。

本 部 : 「直ちに電源を切ってもらい『試合中、操作はしないようにしてください。』と注意して下さい。」

◎電話の持ち主は、コーチングを受けたとしてコード・バイオレーションが科せられることもある。電源を切らないで、携帯電話を含む移動式通信機をコートに持ち込むことは禁じられている。

事例12 : 暑さで、選手が突然鼻血を出して、出血が止まらない。

本 部 : 突発性の出血に関しては、「**メディカルタイムアウトの3分を極力守りながら、出血が止まるまで治療させてください。**」

6 トランシーバー

(1) 試合の開始 (CR → 競技進行係)

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「進行報告 こちら〇〇コート、試合開始しました」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

(2) 途中経過 (CR → 競技進行係)

① 1セットの場合 (どちらかが5ゲーム取得した場合)

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「進行報告 〇〇コート、5-△です」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

番号の若順

② 3セットの場合 (第2セット及び第3セットでどちらかが3ゲーム取得した場合)

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「進行報告 〇〇コート、6-4、3-△です」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

(3) 試合・セットの終了 (CR → 競技進行係)

① 1セットの場合

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「進行報告 試合終了、〇〇コート、6-3です」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

② 3セットの場合はセットごとに連絡をする。

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「進行報告 〇〇コート、第1セット終了しました。6-2です。第2セットに入ります。」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

(4) 選手が来ない (CR → 競技進行係)

「進行報告 こちら〇〇コート、進行本部、どうぞ」
「〇〇コート、△△高校、ロク選手、来ていません」

「進行本部、〇〇コート、どうぞ」
「進行本部、〇〇コート、了解」

(5) 審判員が来ない (CR → 審判係)

「審判委員会 こちら〇〇コート、どうぞ」
「〇〇コート、主審、来ていません」

「審判委員会、〇〇コート、どうぞ」
「審判委員会、〇〇コート、了解」

(6) トイレットブ레이크 (CR → CR本部)

「CR本部 こちら〇〇コート、△△選手、トイレットブ레이크です」

「CR本部、〇〇が対応します、どうぞ」

(7) メディカルタイムアウト (CR → CR本部)

「CR本部 こちら〇〇コート、△△選手、メディカルタイムアウトを要求しています」

「CR本部、〇〇、了解。ただちにそちらに向かいます」

(8) トラブル発生報告 (CR → CR本部)

「CR本部 こちら〇〇コート、トラブルが発生しています。」

「CR本部、〇〇、了解。ただちにそちらに向かいます」

(1) ~ (3) は通信混雑がない状況のみてから手短かに報告を行う。

(4) ~ (8) は緊急性を伴う通信なので、解決が図られるまで、(1) ~ (3) の報告は控える。

7 コートレフェリー報告用紙 記入例

コートレフェリー 報告用紙 () コート			
	CR氏名	対戦名	特記事項(注意事項&警告)
1	練馬喜美男	(A) v s (B) [S]	第5ゲーム、☆☆高校のB選手がラケットをコートにたたきつけたので「警告」を取った。アシスタントレフェリーに報告。
2	浦和輝男	(C) v s (D) [S]	特になし
3	田端邦夫	(E) v s (F) [S]	5オールの時、〇〇高校側の応援がプレイ中に行われていたので、注意した。アシスタントレフェリーに報告。
4	国立健二	(G) v s (H) [S]	事実問題の紛争処理あり。主審に確認して処理。主審が選手からにらまれていたので、2ゲーム審判台の横に立った。
5		() v s () []	
6		() v s () []	

用紙はCRセットに入れておく。その日、最後のCRはCR委員長に提出する。